

## 第 6 回国立国会図書館契約監視委員会議事概要

開催日及び場所	平成 22 年 11 月 18 日（木）午後 2 時～午後 4 時 国立国会図書館総務課第二会議室	
委員長及び委員	委員長 山口俊明（公認会計士） 委員 本田実（城西国際大学 IT 教育センター教授） 委員 山本清（東京大学大学院教育学研究科教授）	
審議対象契約期間	平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 8 月 31 日	
委員長の選出	委員の互選により山口委員を委員長に選出した。 また、本田委員を委員長代理に指名した。	
指名停止の運用状況	なし	
抽出事案（件）	5	（備考）事案総数 520 件
競争入札（公共工事）（件）	1	<p>契約件名：書籍搬送設備整備工事 場所：国立国会図書館東京本館 期間：平成 21 年 8 月 22 日から平成 22 年 3 月 30 日 契約相手方：株式会社 S &amp; S エンジニアリング 契約金額：47,250,000 円 契約締結日：平成 21 年 8 月 21 日 担当部局：総務部会計課</p>
競争入札（物品役務等）（件）	2	<p>契約件名：国立国会図書館東京本館における図書館資料の出納等作業（新館分） 1 式 契約相手方：日本通運株式会社東京ベイエリア支店 契約金額：245,700,000 円 契約締結日：平成 21 年 4 月 1 日 担当部局：総務部会計課</p>
		<p>契約件名：国立国会図書館建築物等の保全 契約相手方：株式会社山武 契約金額：236,250,000 円 契約締結日：平成 22 年 4 月 1 日 担当部局：総務部会計課</p>
随意契約（物品役務等）（件）	2	<p>契約件名：電子図書館基盤システムの改修等 1 式 契約相手方：アクセンチュア株式会社 契約金額：307,843,200 円 契約締結日：平成 22 年 4 月 1 日 担当部局：総務部会計課</p>
		<p>契約件名：電子図書館基盤システム次期システム等工程管理支援等作業 1 式 契約相手方：日本アイ・ビー・エム株式会社 契約金額：273,000,000 円 契約締結日：平成 22 年 4 月 20 日 担当部局：総務部会計課</p>
委員からの意見・質問、それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告	なし	
抽出委員の選出	山本委員を次回の抽出委員に指定した。	

## 別紙

意見・質問	回答等
<p>・国立国会図書館の業務に対応できる業者は限られていると思うが、1者入札はやはり問題である。</p> <p>・書籍搬送設備については、同一業者が、保守・工事ともに受託している。入札の形式はとってはいるが、他の業者が参加できないのでは、結果的に随意契約と同じ。仕様書等の文書類は開示しているのか。</p> <p>・同一業者が毎年引き続いて落札している事例があるが、他の業者も参入できるようドキュメント類は整備されているのか。</p> <p>・前年度と同程度の作業であれば、価格は安くなるようにすべき。一層の作業効率の合理化を図るよう仕様書に加えるべき。</p> <p>・「国立国会図書館東京本館における図書館資料の出納等作業（新館分）1式」において、複数者からの問合せがあったのに対し、1者しか入札参加がなかった理由は何か。</p> <p>・システムの開発に関連して、開発業者以外でも保守ができるように、ドキュメントの提出や既存ソフトウェアの使用、著作権の適切な処理等を行うように。</p> <p>・「電子図書館基盤システム次期システム等工程管理支援等作業 1式」には、いろいろな作業が含まれており、予定価格は算出しにくいと思うが、どのように行ったのか。</p> <p>・システム開発における、工程管理支援の金額が、システム開発費の半分程というのは高すぎると思うが、妥当なのか。システム開発により費用をかけたほうが有益なのではないか。</p>	<p>・入札説明会に参加する業者があっても、当館の規模が大きく、独自の設備でもあり、入札参加まで至らない。今後も参加を呼び掛けていきたい。</p> <p>・仕様書はもちろん図面等の情報も開示している。希望があれば、過去分の資料も開示している。</p> <p>・ドキュメント類は用意されており、他の業者でも遂行可能なようにしている。</p> <p>・図書館の利用者数が増加傾向にあり、業務量も増加している。同価格が実現できるのは、効率化が図られているからと考えている。</p> <p>・他の図書館と業務の質には差がないが、当館に匹敵する作業規模が他に見られないことから、当館規模の作業に必要な人員を用意できないのではないかと。</p> <p>・御指摘のとおりであり、改めて検討する。</p> <p>・当館が提示した作業内容について、受託業者が人員・作業等を算定し、作成した見積をもとに作成する。業者の積算を評価し、適切な金額で契約を締結するかが重要な業務であると認識している。システム規模と、他の事例等から適正な水準の範囲だと判断した。</p> <p>・システム開発費に比して、間接的な費用であるコンサルティング料金が低いというのは御指摘のとおりだが、今回、パッケージソフト導入により設計・開発費が割安になっている。パッケージソフトに合わせた業務の見直しについても支援してもらっているため、コンサルティング費用の割合が高くなった。</p>